



横浜陶芸友の会だより

第 172 号
平成 30 年
11 月 1 日発行

横浜陶芸友の会 第 40 回「作品展」開催へ

横浜陶芸友の会 会長 高橋 光男



お蔭様で横浜陶芸友の会「作品展」も 40 回目を迎えることになりました。

これも偏に会員各位の御協力と努力の賜物ではと大変嬉しく、また感謝しております。

毎年さまざまな技法を使った見応えのある作品が展示され、翌年の作品制作への刺激となりパワーとなっているのではないかと思います。

土は自然から生まれ、自然は土へと帰る.....

人の手が土を美しい器に変えてゆく『第 40 回 作品展をより良いものにしませう!!』

役員会の報告

総務部より

10 月 13 日 (土) 15 時 30 分より

会長・副会長・各役員 9 名で話し合いました。

○事業部 第 40 回「作品展」について

会場・日程 決定

○専修部 秋期研修会の報告

○広報部 「7 月友の会たより」発行

○総務部 「11 月友の会たより」発行予定

「作品展の案内」発行予定

○会計部 次回 (2019 年 2 月) 役員会にて

各部 中間報告提出

◎ 今年暑さが厳しい夏でしたが、季節は巡り作品展まであと二カ月となりました。

40 回目を迎える記念の年。皆様の想いのもつた作品を拝見出来る事を楽しみにしております。

《次回役員会 予定》

日時：平成 31 年 2 月 23 日 (土) 15 時 30 分

場所：杉田地区センター 集会室 A

『第 40 回 作品展』のお知らせ

『作品展』の会場は、東神奈川駅に隣接する「かなつくホール」です。

申し込み方法と作品展の詳細については、会報の 11 月号と一緒に会員の皆様に送付いたしました。

※今年度も、高橋会長の肝いりで

「作品の制作等についての発表会」を

日曜日 15 時から予定しております。

色々な作陶談議で盛り上がりましょう。

お楽しみに。

【会期】平成 31 年 1 月 8 日 (火) ～ 13 日 (日)

【会場】かなつくホール A 室

(JR 東神奈川駅 下車 3 分)

【特設コーナー】「飯茶碗」

【申し込み締切り】平成 30 年 12 月 27 日 (木)

【懇親会】1 月 12 日 (土) 17 時半から

・横浜駅西口徒歩 3 分「魚寅本店」

・「会費」7 千円

※今年度は横浜駅に出かけます。

※搬入日の集合時間・場所

・ 9 時半に「会場入り口」です。

いつものように「整理券」を到着順にお渡しいたします。

※出展される方は期間中会場当番(半日程度)のお手伝いをお願いいたします。

訃報

横浜陶芸友の会で
役員として長年
ご指導ご協力いただ
きました元専修部
の渡邊サトル様が平成30年8月に
ご逝去されました。

「ご生前のご厚情を思えば常世の国への
旅たちに、お見送りをしなければいけま
せんのに何えず申し訳ございません。
故人のご冥福を祈って手を合わせて
おります。」

高橋 光男

訃報

横浜陶芸友の会の事業部で、何時も
ダイナミックな作品を作ってこられた
中野正好様が平成30年9月に
ご逝去されました。
ここに謹んでご冥福をお祈りすると
ともにお知らせ申し上げます

「中野正好さんを惜しんで」

2017年1月 作品展



「コスモストーン」(日展入選作品)
「静かなる卵」
「崩壊するストーン」

真似のできない着想と独自の釉薬の作品で
日展・全陶展・日本現代工芸美術展などの
公募展でこの三年間受賞や入選をされていた
中野さんが急逝されるとは、ただただ驚くば
かりです。

初めて事業部と一緒に飲んだ時、劇団四季
の有名な「キャッツ」のメイクを担当してい
たと聞き「凄い人が友の会に入ってくれた」
と喜んだものです。

奥様からのお手紙によると、肺癌のため入
院予定の10日前に急変し、緊急入院してわず
か3日で永眠された。とのことでした。

本当に残念な事ですが、「直前まで普通に生
活できたのは幸いなことだと思っている」と
奥様もおっしゃっています。
ご冥福をお祈りいたします。

鍋島 弘義

メイクアップアーティストとしては有名な方
だったらしいので、ストレスも多かったのだ
でしょうか。

一緒に飲んだ時にお酌をしてくれたりして
やさしい方でしたね。残念です。

鈴木 貴久

秋の焼成会(研修会) 報告

専修部

今年は9月16日(日)に技能文化会館にお
いて、飛びカンナ技法の習得を目指して研修
会を実施しました。

参加者はちょっと寂しい7人(23作品)で
したが、ロクロ3台を駆使して思い思いの模
様(?)を刻みました。

とは言うものの、白化粧泥を塗り程よく
乾いたところでカンナ当てますが、土が乾き
すぎてカンナが弾かれ、逆に柔らかすぎてカ
ンナが弾けず上滑りするなど結構苦戦を強い
られました。



化粧掛け





貝森俊司さん

「一輪挿し」「中鉢」2枚
「小鉢」「ピアカップ」
全て
備前土 穴窯焼成です

お話を聞く事ができず、作者名と作品名しか紹介できない方が多くなりました。

『第39回 作品展』紹介③



カンナ掛け



それでも何回か挑戦するうちに、そこそこ飛びカンナ模様を形成することができました。カンナ技法の難しさとともにその醍醐味を味わった研修会でした。焼成は各自が行いますが、1月の作品展に展示できることを願っております。

・「飛びカンナの皿」は、粉引きの後に撥水剤を塗り飛びカンナの模様を呉須で着色。
・「大黒さん」「小地藏さん」は、自分なりに可愛く作ってみました。
(鍋島)

鍋島弘義さん



「飛びカンナの皿」
「大黒さん」
「小地藏さん」
「夫婦湯飲み」

○今年の一品 「木の葉皿」(川島)
電気窯で焼成したのですが、全体に天目釉を掛け更に白萩と織部を半々に掛けました。もう少し、緑色が出れば良かったのですが黒が強くなってしまいました。「花器」や「ネックレス」は身延の穴窯で焼いたものです。

川島幸子さん



「大皿・飛びカンナ」美濃赤土・白化粧生
「皿・飛びカンナ」信楽白・白化粧生
「木の葉皿」信楽赤 天目・白萩・織部釉
「ネックレス」信楽土 穴窯焼き締め等
「花器」信楽白 穴窯焼き締め

【備前のお皿と酒器たち】
「鉢」「平皿」
「徳利」火罨き
「ぐい飲み」
すべて、備前の土
穴窯焼成です



大日方 毅さん



○今年の一品 「花器」(須藤)
何かいい記念になる物を作りたいと思っていたら、ある雑誌に載っていた花器が「花が無くて飾りになる、いい形だな」と思い「この形はどう作れば出来るかな？」と、考えながら時間をかけて作りました。自分なりによかったですと思っています。



須藤芳弘さん

「花器」穴窯焼成 自然釉
「マグカップ」「ぐい飲み」
穴窯焼成 自然釉

「どんぶり」磁器土 透明釉薬
 ①(呉須) ②(パッチワーク)
 「どんぶり」赤土 弁柄 還元
 ①透明釉薬 ②灰釉薬
 「豆皿」①赤土 透明釉薬 弁柄
 ②赤土 白釉薬 型押し



浜野 寿子さん



○今年の一品 「花器」
 お花が無いとあまり目立たないけど、正月に床の間に花を生けて置いたら、みんなに「すごく素敵ね。」と言われました。
 ロクロと手捻りの合作作品です。(徳植)



徳植 美和恵さん

「花器」信楽白 黒マットに白マット
 「ピッチャー」信楽白土 白雪釉
 「大皿」①信楽土 鳴海織部釉 ②飛びカンナ
 「ドラ鉢」信楽白土 黒マットに白雪釉
 「中鉢」①信楽白土 黒天目に青銅
 ②ハートの部分ピーコックの彩磁に土灰織部
 「おちょこ」練り込み



井上 明さん

【備前土 穴窯焼成】
 ①自然釉大鉢 ②自然釉中皿3枚
 ③自然釉葉形中鉢 ④自然釉花入
 ⑤自然釉一輪挿し3個
 【信楽土 穴窯焼成】
 ⑥自然釉花入3個



鈴木 早苗さん

【透光磁練り込み】
 (使用土)ニューボーン・無釉
 「赤色分銅柄の深皿」
 「オレンジと紫色の分銅柄深皿」
 「ケーキ皿」「茶碗」
 「白色分銅柄の茶碗」「箸置き」



下村 武子さん

①「三色掛分け井」
 ②「井」(呉須線模様)
 ③「井」(緑線模様)
 ④織部函(型起こし)



○今年の一品 「花器(蹲る)」
 伊賀の土に、残っていた松灰釉をたっぷりかけ、電気窯で還元をかけ焼きました。
 流れた釉薬が止まってくれて穴窯風に焼成出来ました。(出淵)

出淵 僖江子さん



「花器」2点 伊賀土 松灰釉 還元焼成
 「白いうつわ」3点
 ①②越前白土 呉須模様 白マット釉
 ③越前白土 弁柄模様 唐津釉
 「黒いお皿」4点 ①黒泥土 油滴天目
 ②黒泥土 白化粧土文 透明釉
 ③「小皿」「箸置き」

○今年の一品 「黒楽茶碗」
 この茶碗は 15 年位前、身延の穴窯で初めて焼いたもので、作品を整理していた時出てきた作品です。
 みんなで面白半分には捨て間で焼いたもので、700℃に上がった状態で取り出したのですが、たまたま、一つだけ取れたもので、温度調整が難しいものだと、つくづく思いました。
 いつもと同じで、御窯が何とかやってくれて、たまたま出来たと思っています。
 (鈴木和子)



鈴木 和子さん



- 「長陶板」「片口」「焼締丸鉢」「香合」
信楽土 自然釉
- 「長陶板」信楽土 織部釉
- 「ぐい呑」5点 信楽 自然釉・織部釉
- 「茶碗」信楽土 黒楽
- 「茶入」備前土 自然釉「向付」5点
信楽 自然釉・白萩



広報部より

第40回作品展でも インタビューに基づき記事を掲載いたします。ご協力よろしくお願いたします。

○今年の一品 「大皿」
 陶芸が大好きなのですが、なかなか腕が上がらず手捻りが多いのですが、久し振りに電動ロクロで大皿を作ってみました。
 釉薬は、白萩釉に先生が作られた青緑窯変釉を縁に掛けました。
 ちょっと、色々なものが盛れたらいいなと、思っています。(池見)



池見 千枝子さん



- ①「大皿」②「中皿」 信楽白土 白萩釉青緑窯変釉
- ③「変形花入」黒御影土 青銅釉
- 【信楽赤土】
- ④「手付鉢」黄土マット 織部釉 ⑤「角皿」黒天目釉
- ⑥「ぐい呑み」黒天目釉 黄土マット
- ⑦「かべ掛」乳緑釉 青銅釉 ⑧「花皿」
- ⑨「角小皿」 乳白釉 青銅釉

スプレー掛けて施釉するのは尺皿以上の大物に限っております。(掃除が面倒)



皿を挟んだ状態。手前は尺皿、奥は 8 寸皿です。
 赤い玉に親指を掛けて持ち上げ、釉薬の中に浸すだけ。
 とても楽です。

金属と木製の棚受け(木製は穴開け)、アクリル棒(先端をサンダーでとがらす)玄関マット(底板)を使用。
 材料費は約 800 円(赤漆は別途)
 支点が皿の中心になるので力が要らず、簡単に釉薬を掛けることが出来ます。

紹介してくれたのは 鈴木貴久さん です



尺皿まで対応の釉掛け道具を作りました。
 (奥は市販品の皿用釉掛けはさみ)

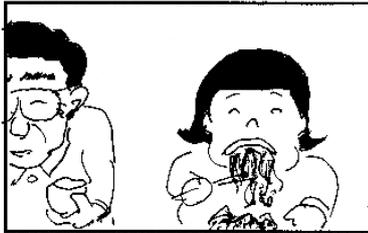
会員の方から教えていただいた「手作り道具」の紹介です

陶陶さん

年末作品展が近づいてきましたね

第 94 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
第 172 号

(平成 30 年 11 月 1 日発行)
発行人 横浜陶芸友の会

会場は 横浜山手 イタリア山庭園そば
「アートギャラリー アスレ」です。
お時間のある方は、お出かけください。

M.O.S.T.²
穴窯焼成仲間作品展

M. 本橋 昭彦 O. 逢坂 博樹 S. 鈴木 和子
T. 田村 和正 T. 高橋 光男

～ アートギャラリー ATHLE ～
(横浜市中区 山手イタリア山庭園 そば口)
2018年11月26日(月)～12月2日(日)
10:00～16:00
※26日(初日)は12時にオープンします。

出品者 M. 本橋昭彦 O. 逢坂博樹 S. 鈴木和子
T. 田村和正 T. 高橋光男

友の会会長 高橋光男さんをはじめとする会員の参加するグループ展が 11月26日から12月2日まで行われます

ホームページでもお知らせしていますが 会員の活動の様子を報告いたします

何年前か前、あるアイデアマンのもので、ちよつと深めの内側釉掛けに便利さがあります。噴水形式ですのでバケツの内側で作業出来て重宝しています。灯油ポンプの一番安いもので作っています。

内側釉掛け用ポンプ



「手作り道具」紹介してくれたのは 赤星公人志さんです

皆様に紹介したい「手作り道具」がありましたら、是非、ご一報ください お待ちしております (会報担当)

・「第40回作品展」では出展された皆様の「この一品」への想いを、写真でもわかりやすく、また、お話を伺い、会報で紹介していきたいと思ひます。
会期中にお会いできず、お話が聞けない方も出るかとは思いますが、ご協力ください。
・友の会HPの「会員ページ」には皆様の力作が見やすく掲載されています。
時には開いてみてください。 (鍋島弘義)

【編集後記】
・東京国立博物館で開かれていた「縄文」を見に行ってきました。
皆さんはいらつしやいましたか？
最終日前日の土曜日ということもあり、館内は大勢の観客で溢れ返っていましたが、展示は系統だてて陳列されており、とても良い展覧会でした。なかでも火焰型土器や土偶「縄文のビーナス」などの国宝6点は圧巻でした。
(大日方)